

## 子ども読書の日

4月23日は、子ども読書の日です。これに合わせて毎年釜利谷小学校では、校長が朝会で読書についての講話をすることになっています。

そこで私は4月17日（木）の朝会で、自分が小学生のころ学校の図書館（当時は「図書室」と言っていました。現在は「学校図書館」と呼び方が変わっています）で借りて読んだ本を紹介しました。

「ぐりとぐら」（なかがわりえことおおむらゆりこ／福音館書店）

大きなカステラがとてもおいしそうでした。

「しょうぼうじどうしゃじふた」（渡辺茂男さく 山本忠敬え／福音館書店）

ジープを改造した小さな消防車「じふた」の活躍がとてもうれしかったです。

「だるまちゃんとてんぐちゃん」（加古里子／福音館書店）

お話も、たくさん絵がかき込んであるのもおもしろいです。

字がたくさんの本も読めるようになると、ドリトル先生のシリーズやシャーロックホームズ、ルパンなどのミステリーも借りて読むようになりました。

その後、最近読んだ映画や舞台、テレビドラマになった本を見せました。

さらに

「読書をする子は〇〇がすごい」（榎本弘明／日経プレミアシリーズ）

という本を紹介して、読書をするるとよいことがあるそうですよ、と話しました。

この本によると、読書をする

読書が語彙力や読解力につながる（P93）/読書によって説得力のある意見を発信できるようになる（P103）  
/読書が言語能力に関係する神経線維の発達を促す（P107）/知らない言葉がある本が知的発達を促進してくれる（P111）/自分以外の視点が手に入り、認知的複雑性が高まる（P117）/知らない世界が開け、知的好奇心が刺激される（P122）/非日常の世界を生きられる（P129）/想像力が飛翔し、発想が豊かになる（P131）  
といった効果が得られる、ということです。講話の中では、全部は難しいのでかいつまんで易しい言葉で紹介しました。

後日学校司書から、ある子が「『ぐりとぐら』ってそんなに昔からあるんだね」と言っていたと聞きました。確かに、私が小学生のころからあるし…と図書館の本を調べてみると、奥付に

1963年12月1日 月刊「こどものとも」発行／1967年1月20日「こどものとも傑作集」第1刷／2013年4月20日 第196刷

となっていました。本当に長く読み継がれている本なのだと改めて感じました。

先ほど紹介した本の中では、家庭で本を読む習慣をもつことの大切さにもふれていました。「子ども読書の日」に合わせて、またそれ以外の日にも、ぜひご家庭で読書に取り組んでみてはいかがでしょうか。



図書館前に、さっそく朝会で紹介した本のコーナーが設置されました。